

■九州朝日放送番組審議会議事概要（3月分）

第581回	九州朝日放送番組審議会 議事概要
開催年月日	平成28年3月14日（月） 午後3時30分～5時00分
開催場所	九州朝日放送 本社役員会議室
出席者	<p>委員総数 8名 出席委員数 7名 欠席委員数 1名（レポート提出）</p> <p>（出席委員） 光富 彰委員長、宮田 克彦副委員長 古宮 洋二委員、鶴 利絵委員、野田 幸之輔委員 三好 京子委員、松村 茂雄委員</p> <p>（放送事業者側出席者名） 代表取締役社長 武内 健二 常務取締役編成制作局長 半田 俊彦 取締役ラジオ局長 清水 透 報道局長 佐伯 拓史 報道局次長兼報道部長 松延 健次 ディレクター 野村 友弘 視聴者・広報室長兼審番事務局長 久芳 康治 事務局長 都合 信司、松田 泰久</p>
議 題	<p>テレビ番組 「テレメンタリー2015 シリーズ戦後70年 父の戦争 戦艦武蔵 甲板士官の遺言」 <放送日>平成27年12月27日(日)午前3時20分～3時50分</p> <ol style="list-style-type: none"> 平成28年3・4月ラジオ・テレビ番組編成状況の報告 平成28年2月視聴者・聴取者応答状況の報告 その他
議事の概要	<p>◎委員の意見（概要）</p> <p>委員からは</p> <ul style="list-style-type: none"> ○戦争に対する無力さ、悲惨さ、人生の理不尽さを感じさせる番組だった。 ○お父さんの生とは、戦友の死を抱え生きていく試練の始まりとあったが戦争は命を落とした人も助かった人も皆同じように苦しむものだということが良くわかった。 ○時代背景の説明や資料映像、写真の使い方も良く、「そこには甲板士官の姿はなかった」など実子ならではの短い言葉も効果的だった。 ○戦後70年を超え、平和ボケしている今の日本人にこれで良いのかを問う番組だった。 ○戦艦大和と比較するとやや影が薄い戦艦武蔵を取り上げた意義は大きい。 ○戦争体験に関する親子のプライベートな内容から始まりメッセージ性のある番組へと展開して行くところが良かった。 <p style="text-align: right;">などの評価を頂きました。</p> <p>また、気になる点や望むこととしては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○番組の中でお父さんへの思いをもっとぶつけても良かったのでは、淡々とすすぎで、物足りなさも感じた。 ○30分では短く編成時間が深すぎる。昼間に再放送するなどしてぜひ10代、20代の若者に見せて欲しい。 ○「テレメンタリー」は深夜の編成だが、これからも良い番組を送り出して欲しい。 <p style="text-align: right;">などの批評や提言を頂きました。</p> <p>これらに対して、担当者から、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○父が戦艦武蔵に乗っていたことは知っていたが、詳細には聞き出しておらず、5年前に他界した後は悔しい思いをしていた。 ○家族間の葛藤の描き方が淡々としていて、物足りないと感じられたことは、自分の力不足だったかもしれない。 ○仕事ではあったが、自分にとって大変意義深いものになった。 ○自分の家族を題材にしたドキュメンタリー番組を家族の視点で描くことについて、冷静に捉えられるのかと危惧した面もあったが、狙いについては間違っていないことが分かった。 ○年末編成のため、通常の「テレメンタリー」よりさらに深い時間の編成となった。 <p style="text-align: right;">などの説明をしました。</p>